インフォメーション❸

「わが村は美しく―北海道」運動 第５回コンクール受賞団体決定！

北海道開発局では、道内各地で地域の魅力と活力を高めようとする地域住民の努力と行動に光をあて、これを広く伝え、その活動を支援し、普及させていくことによって、農山漁村のさらなる発展に寄与することを目的に、「わが村は美しく―北海道」運動を推進し、その一環として平成14年から２年に１度コンクールを開催しています。

コンクールでは、生活と生産から形成される「景観」、地域の農林水産資源にこだわった「地域特産物」、地域内外の「人の交流」の３部門について募集を行い、今年で５回目となるコンクールには全道104市町村の200団体から過去最多の271件の応募がありました。

審査は、全道10ブロック毎に置かれた調査委員が各ブロック内の全応募団体を訪れ直接お話をうかがい、その後、表彰審査委員が現地調査及び審査を行い、農山漁村における地域の活性化や個性的で魅力ある地域づくりにおいて特に優秀な20の団体を選考しました。

表彰式は、平成23年２月16日に京王プラザホテル札幌で行われ、高松泰北海道開発局長から受賞団体へ表彰状が授与されました。

また、表彰式の後の交流会では約190名の参加者が“わが村”自慢の味に舌鼓を打ちながら、各地域で活躍されている団体間の情報交換、PRなどで交流を深めました。

受賞団体の代表者と関係者による記念撮影

■部門賞

〈景観部門〉

銀　賞　万年環境保全会（音更町）
銅　賞　赤井川村農業元気グループ Together（赤井川村）
特別賞　たきかわナタネ生産組合（滝川市、赤平市）
特別賞　いにしえ街道華の会（江差町）

〈地域特産物部門〉

金　賞　夕張メロン組合（夕張市）
金　賞　高橋牧場（えりも町）
銀　賞　一般社団法人北海道中小企業家同友会苫小牧支部 美苫みのり会（苫小牧市）
銀　賞　十勝本別「キレイマメの会」（本別町）
銅　賞　たきかわナタネ生産組合（滝川市、赤平市）
銅　賞　「恵庭農畜産物直売所 かのな（花野菜）」運営協議会（恵庭市）
銅　賞　とかちサンタランドツリーの会（広尾町）
特別賞　まっかりまんま（真狩村農産物加工研究会）（真狩村）
特別賞　南富良野町商工会（南富良野エゾカツカレー推進協議会）（南富良野町）

〈人の交流部門〉

金　賞　国際トラクターBAMBA実行委員会（更別村）
金　賞　幕別町立途別小学校（幕別町）
銀　賞　赤井川村農業元気グループ Together（赤井川村）
銀　賞　北海道標茶高等学校（標茶町）
銅　賞　流氷あいすらんど共和国（紋別市）
銅　賞　北のカレー工房・きららの会（中富良野町）
特別賞　NPO法人とかち馬文化を支える会（帯広市）

事務局：北海道開発局農業水産部農業振興課

受賞団体のご紹介

景観部門「個性あふれ、誰もが訪れたくなるような村」

【銀　賞】
万年環境保全会（音更町）

万年地域では、かつて水田営農を行っていた時代から畑作転換後も地域環境保全の活動が様々な形で行われていましたが、活動を充実発展させるため万年環境保全会を設立し、農業者のみならず地域住民が一体となって排水路や農道、市街地での環境整備を行っています。地域の景観を守るのは住民自らが担うべきと考え、「いままで百年、これから万年」との思いで、共同活動を通じた地域主体の農村コミュニティ形成を目指しています。

【銅　賞】
赤井川村農業元気グループ Together（赤井川村）

赤井川村に帰郷した若手農業後継者８名が「自分達の手で美しい村の景観作りに一役買いたい」との思いから、市街地入口の遊休農地でひまわり畑を造成したことから活動を始め、写真・絵画コンテストや村内外にひまわりの種配布などを行ってきました。２年目からは新規就農者５名も参加し、現在では活動に賛同した農家が、「農地は地域の財産である」と、景観緑肥としてのひまわり導入も増えるなど、美しい村づくりは地域に着実に定着してきています。

【特別賞】
たきかわナタネ生産組合（滝川市、赤平市）

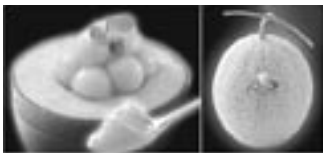
地域農業を守るための畑作・転作における輪作作物として、ナタネが本格的に導入され、栽培技術の向上や生産者の努力により地域に定着し、今では作付面積日本一になりました。５～６月には江部乙丘陵地帯を中心に、黄色に輝く菜の花の絨毯が広がり、毎年作付けされる場所が変わるため、年毎に違った景色を楽しませてくれます。開花時期には約２万人が訪れるまでになり、北海道の新しい景観作物として、観光資源としても注目されています。

【特別賞】
いにしえ街道華の会（江差町）

明治以降の歴史的建造物を保存し歴史ある街並みとして復活した1.1Kmの「いにしえ街道」において、街並みに合うよう「和」の基調にこだわった大型樽プランター60基を中心に季節の花と緑を提供し、街ゆく人達に憩いと安らぎを与えています。末永く持続できる活動にしようと、会員自らが畑で育てた花を使うなど様々な工夫をしながら、お金ではなく知恵と労力による活動を行っています。

地域特産物部門「魅力ある特産物から生まれる新たな地域ブランド」

【金　賞】
夕張メロン組合（夕張市）



農地としては恵まれない狭隘な山間地域において、「夕張メロン」を北海道の代表的なブランドに育てあげ、夕張市を農業で支え続けてきました。徹底した土づくりと、栽培技術向上のための講習会、圃場巡回などの取り組みを実践するとともに、一元出荷全量体制による品質の統一と管理を厳格に行い、安定的な生産・販売に努めてきました。創立50年を機に、生産者の強固な連携のもと、新たなステージへの挑戦が期待されています。

【金　賞】
高橋牧場（えりも町）

漁業の不漁の対策として昭和初期に再導入された「えりも短角牛」をえりもの特産品として育てていこうと、生産から飼育、販売までを一貫して行い、ブランド化、産直、ファームイン、ファームレストランを展開しています。この短角牛の生産と肉販売を通して、より安全で環境保全型の牛肉生産を目指すとともに消費者グループ等のツアーによる都市住民と地元の交流、地域の子どもたちへの命の大切さを伝える食育など食を通した地域活性化に取り組んでいます。

【銀　賞】
一般社団法人北海道中小企業家同友会
苫小牧支部　美苫みのり会（苫小牧市）

地産地消をテーマに苫小牧市の水道水（樽前山の伏流水）と厚真町の酒米をもとに平成14年に「美苫」第１号を完成させ、地域限定で販売しています。この美苫をとおして、JAとの連携強化により地元産米の学校給食への提供、異業種との連携による「美苫」関連商品の開発や市民を巻き込んだ田植え体験や酒造行程見学会などの取り組みを展開しています。市民の間では地域ブランド「美苫」の知名度も広がっており、市民に愛される地酒による地域活性化を目指しています。

【銀　賞】
十勝本別「キレイマメの会」（本別町）

本別生まれの中生光（ちゅうせいひかり）黒大豆を使用し、高級志向、健康美容志向、ネーミングの３つをコンセプトに黒豆味噌、黒豆納豆など10種類のキレイマメ商品をブラックシリーズとして製造、販売しています。商品のパッケージデザインを武蔵野美術大学に協力を得るとともに、農業者・加工業者・商業者・行政が連携し、商品開発や販路拡大の取り組みを進めています。

【銅　賞】
たきかわナタネ生産組合（滝川市、赤平市）

たんぱく源が豊富で、非遺伝子組み換えの安全、安心なナタネを圧搾抽出により搾油した「なたね油」、地元産玉ねぎを使用した「菜の花オニオンソース」を商品化し販売するとともに、６次産業化に向けた拠点施設「菜の花館」を設置し、搾油副産物を活用した商品づくりをめざして、ナタネ生産をさらに定着させる新たな取り組みが本格化しています。お菓子や料理にも取り入れられるなど、ナタネを核としたコミュニティービジネスの展開が期待されています。

【銅　賞】
「恵庭農畜産物直売所　かのな（花野菜）」運営協議会（恵庭市）

道の駅「花ロードえにわ」の直売所で、主に恵庭産農畜産物を提供しています。特に、花苗や切り花は、道内有数の産地ならではの品揃えを誇っており、好評を得ています。利用者の半数以上が地元住民であり、地域のニーズに的確に応えることで、農業者の意識も高まり、連携が深まっています。直売所を核として、都市住民への農畜産物の提供のみならず、地元レストランへの食材提供などの連携を行い、食を通した地域全体への活性化に貢献しています。

【銅　賞】
とかちサンタランドツリーの会（広尾町）

日本で唯一サンタランドとしてノルウェーのオスロ市から認定を受けている広尾町で、欧米のクリスマスに生木を飾るという習慣を広めようと生木の全国発送により「生きている木」にふれる機会を全国の家庭に提供しています。成長した生木を植える庭がない方から送り返してもらうシステムを導入し、その木は地元の保育園児と植樹を行い、都会と広尾町を結ぶ橋渡しの役割と広尾町の知名度向上につなげる取り組みを進めています。

【特別賞】
まっかりまんま（真狩村農産物加工研究会）（真狩村）

生産量が日本一を誇るゆりねの規格外品を素材に加工や料理法の研究を行い、ゆりね100%のスイートコロッケのレシピを完成させました。「手作り」、「無添加」にこだわり形も丸くて親しみやすいかわいいコロッケは、北海道主催のしりべしコロッケ博覧会でグランプリを獲得し、洞爺湖サミットでは、各国首脳の夫人らに地元産食品として試食に供されお代わりを求められるなど、好評を博しています。更なる加工品の検討やレシピ作成に向けた取り組みを進め、ゆりねの消費拡大とともに村の発展・振興を目指しています。

【特別賞】
南富良野町商工会
（南富良野エゾカツカレー推進協議会）（南富良野町）

有害獣であるエゾシカの駆除とそれを資源とした町おこしを契機に、ご当地グルメとして「南富良野エゾカツカレー」を開発しました。メニューは町内の飲食店10店舗で提供しており、トッピングの野菜も地元産にこだわっています。地元の高校との連携を図り「ディアガールズ」として各種イベントでのPR、全道カレーサミットに参加するなどエゾシカ肉の消費拡大と普及活動に取り組んでおり、エゾシカ日本一を目指しています。

人の交流部門「農山漁村と都市や他の地域との心やすらぐ人と人の交流」

【金　賞】
国際トラクターBAMBA実行委員会（更別村）

地域住民の発想から生まれ、村民の自主的な参加による手作りのイベントとして、日本初の農業用トラクターを馬に見立てたばん馬レースを年１回開催しています。全国各地から多くの観客が集まることにより、都会に暮らす人（消費者）との交流が生まれ、安全・安心な食、農産物、農業の大切さをアピールしています。

また、村内における異業種交流も行われるようになり、村の活性化につながっています。更別村の知名度も向上し、地域づくりの先導役としてその役割の一端を担っています。

【金　賞】
幕別町立途別小学校（幕別町）

昭和61年、十勝水田発祥の地の灯を消さないでほしいとの願いから、途別地域の人々の思いを引き継いで、学校の小さな水田で稲の栽培が約四半世紀もの間途絶えることなく、地域からの厚いサポートと温かい交流の中で続けられています。

地域の老人クラブの方々の指導により、苗の育苗、しろかき、田植え、草取り、稲刈り、脱穀などの作業が昔ながらのやり方で行われており、広さ0.7アールの小さな水田で、途別小学校の子どもたちは生き生きと農作業に取り組んでいます。去年は、もち米42kgうるち米13kgが収穫され、12月に行われたもちつき集会で、学校や地域120名の交流が行われました。

【銀　賞】
赤井川村農業元気グループ Together（赤井川村）

ひまわりをきっかけとした美しい村づくりの活動は、やがて、村に人を招きたいという思いに至り、ひまわりフォトコンテストやとうきびまつりの開催などへと発展し、村と都市の人との交流が生まれました。その活動における仲間づくりが、村内における新規就農者や農業後継者の心の支えになり、地域コミュニティづくりに大きく貢献しています。

【銀　賞】
北海道標茶高等学校（標茶町）

同校で生徒自ら生産した農畜産物を素材に加工製造した製品を「グラスランド」のブランド名で販売しており、生産から加工して消費者に届けるまでのフードシステムを学習する中で人とのつながりを深めたり、「釧路湿原再生プロジェクト活動」では、基幹産業の酪農と自然環境の共生を目指して、校内にミニ湿原を造成するなど地域と共に学ぶ環境教育を推進しています。このほか町の花いっぱい運動に協力して、町民と共に花の栽培を行ったり、地元の幼稚園や小中学校等とジャガイモの栽培や収穫などの体験を通じて交流しています。

【銅　賞】
流氷あいすらんど共和国（紋別市）

毎年２月１日から２月末日までの開国期間中、様々なイベントを行っており、特にユニークなものとして、全国から募集して選ばれた一組のカップルが、本物の流氷をウエディングケーキに見立て、ナイフの代わりにノコギリを入刀するという流氷結婚式があり、マスコミにも大きく取り上げられています。

活動は25年以上も続いており、多くの観光客が訪れ、冬の紋別の観光振興に大きく貢献しています。

【銅　賞】
北のカレー工房・きららの会（中富良野町）

地元の女性農業者がカレーのお店の経営を通じて消費者と顔の見える関係を築いています。カレーの食材は地域のおいしいものをおいしい時期に提供したいという思いから、スタッフが自らの農場や地元で生産したお米、野菜、メロンなど地場産の旬の素材にこだわり、夏季の２か月（６月下旬から８月下旬）に限定して営業しています。カレー工房を訪れたお客様にはリピーターが多く、お米や野菜の宅配を注文したり、農場で収穫体験を行うなど消費者との交流が深まることで、地域全体で農業体験の受け入れを行おうという動きにつながってきています。

【特別賞】
NPO法人とかち馬文化を支える会（帯広市）

小学校などへ出向き馬を教材にした授業を行う教育活動、「馬文化新聞」の発行による馬に関わる歴史の伝承、障害者を馬に乗せる福祉活動など、ばんえい競馬の存続のみならず、北海道の貴重な文化である馬を通じた様々な活動を展開して、馬の文化や魅力を伝えています。

最近では、刑務所や福祉施設と共同で馬グッズを製作し始め、地域とのつながりは更に広がっています。

乾杯の音頭は「北海道田園委員会」林美香子委員長

“わが村”のPRとコミュニケーションの場となった交流会